

公共事業継続箇所評価調査

(様式5)

評価確定日(令和5年 9月29日)

事業コード	R5-建-継-05	区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	地方道路交付金事業(改築)	部局課室名	建設部 道路課
事業種別	二次改築(現道拡幅)	班 名	道路建設チーム(TEL)018-860-2492
路線名等	一般国道 107号	担当課長名	道路課長 石川 康樹
箇所名	由利本荘市鶴舞	担当者名	チームリーダー 船木 孝仁
プランとの関連	戦 略	防災減災・交通基盤	
	目指す姿	交流を支える交通基盤の強化	
	施策の方向性	高速道路等の整備	

1. 事業の概要

事業期間	H11 ~ R12 (32年)	総事業費	139 億円	国庫補助率	0.595	
事業規模	○延長L=2,000m、幅員W=13.0(25.0)m (4.5+0.5+6.5+2.0+6.5+0.5+4.5)m					
事業の立案に至る背景	○一般国道107号は、岩手県大船渡市を起点に本県由利本荘市に至る幹線道路であり、日本海側と太平洋側を結ぶ、産業、経済の交流に重要な役割を果たしている路線である。 ○当該区間は渋滞対策区間となっている。 ○日本海沿岸東北自動車道「本荘IC」がH19年9月17日に開通し、本荘市街と高速交通拠点のさらなるアクセス強化が図られる。					
事業目的	○中心市街地の活性化(混雑度1.89の解消) ○物流の効率化の支援(本荘IC) ○日本海沿岸東北自動車道「本荘IC」へのアクセス機能強化 ○安全な生活環境の確保					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		前回評価	今回評価	増減	理由等	
	事業費	11,530,000	13,900,000	2,370,000		
	経費内訳	工事費	3,816,000	5,611,000	1,795,000	労務資材単価の上昇による増額
		用補費	6,852,000	7,195,000	343,000	建物調査結果による補償費増額
		その他	862,000	1,094,000	232,000	埋蔵文化財調査費用による増額
	財源内訳	国庫補助	6,860,350	8,270,500	1,410,150	
		県債	4,202,600	5,066,500	863,900	
その他						
一般財源	467,050	563,000	95,950			
事業内容	調査・設計 用地補償 改良工 橋梁工 舗装工	調査・設計 用地補償 改良工 橋梁工 舗装工				
事業の進捗状況	○令和4年度末で事業進捗率83%(用地進捗率は97%)					
事業推進上の課題	○現道交通を確保しながらの切回し施工が必要となり、工夫を要する。					
関連する計画等	○由利本荘市総合計画 ○由利本荘市地域公共交通網形成計画					
情勢の変化及び長期継続の理由	○日本海沿岸東北自動車道 (岩城IC~国道7号) H19.9.17供用開始 " (国道7号~金浦IC) H24.10.27供用開始 (金浦IC~象潟IC) H27.10.18供用開始 ○H28「鳥海山・飛鳥」日本ジオパーク認定 ○ナイスアリーナ開業 H30.10.1					
事業効果把握の手法及び効果	指標名	県管理道路改築率				
	指標式	改築率(県管理道路改築済延長/県管理道路実延長)				
	指標の種類	● 成果指標 ○ 業績指標	低減指標の有無	○ 有 ● 無		
	目標値 a	52.2%(R7末)	データ等の出典	道路課調べ		
	実績値 b	52.0%(R4末)	把握の時期	令和5年7月		
達成率 b/a	99.6%					

前回評価結果等	● 選定または継続 ○ 改善 ○ 見直し ○ 保留または中止
	①指摘事項
	特になし
	②指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容（特記事項）	評 価 点
必 要 性	○当該路線は通学路指定区域であるが、事故率127件/億台kmと高いため、車両及び歩行者相互の安全な交通空間確保のため早急な整備が必要である。 ○混雑度1.89であり、定時性の確保に課題がある。	10点
緊 急 性	○第1～2期区間は既に供用済みであり、事業効果を高めるために早期の整備が必要である。 ○事業区間内の組立歩道が老朽化により崩落し、一部歩道通行止めとしており、安全な歩行空間確保のため、早期の整備が必要がある。	10点
有 効 性	○第二次緊急輸送道路であり、災害時の避難救助活動や二次救急医療施設である由利組合総合病院や本荘第一病院へのアクセス道路としての活用が見込まれ、整備による救命率の向上が期待される。 ○日本海沿岸東北自動車道の本荘ICアクセスに直接寄与する路線であることから、整備による地域の観光・産業の活性化に大きく貢献する。	28点
効 率 性	○事業の費用便益比は1.26であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値 198.0 億円 ・総便益の現在価値 249.0 億円 ○計画交通量は18,100台/日である。	18点
熟 度	○平成28年度に約1km、令和3年度に約600m区間の部分供用済み。 ○令和4年度末の事業進捗率は83%である（用地進捗率 97%）	20点
判 定	ランク（ ●Ⅰ ○Ⅱ ○Ⅲ ） 有効性が高く、事業は引き続き実施すべきである。	86点
総 合 評 価	● 継続 ○ 改善して継続 ○ 見直し ○ 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

コスト削減に努めながら、計画的な実施に努める。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

前回評価結果等	<input checked="" type="radio"/> 選定または継続 <input type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 保留または中止
	①指摘事項
	特になし
	②指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容（特記事項）	評 価 点
必 要 性	○当該路線は通学路指定区域であるが、事故率127件/億台kmと高いため、車両及び歩行者相互の安全な交通空間確保のため早急な整備が必要である。 ○混雑度1.89であり、定時性の確保に課題がある。	10点
緊 急 性	○第1～2期区間は既に供用済みであり、事業効果を高めるために早期の整備が必要である。 ○事業区間内の組立歩道が老朽化により崩落し、一部歩道通行止めとしており、安全な歩行空間確保のため、早期の整備が必要がある。	10点
有 効 性	○第二次緊急輸送道路であり、災害時の避難救助活動や二次救急医療施設である由利組合総合病院や本荘第一病院へのアクセス道路としての活用が見込まれ、整備による救命率の向上が期待される。 ○日本海沿岸東北自動車道の本荘ICアクセスに直接寄与する路線であることから、整備による地域の観光・産業の活性化に大きく貢献する。	28点
効 率 性	○事業の費用便益比は1.26であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値 198.0 億円 ・総便益の現在価値 249.0 億円 ○計画交通量は18,100台/日である。	18点
熟 度	○平成28年度に約1km、令和3年度に約600m区間の部分供用済み。 ○令和4年度末の事業進捗率は83%である（用地進捗率 97%）	20点
判 定	ランク (●Ⅰ ○Ⅱ ○Ⅲ)	86点
	有効性が高く、事業は引き続き実施すべきである。	
総 合 評 価	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 中止	
	事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

コスト縮減に努めながら、計画的な実施に努める。

4. 公共事業評価専門委員会意見

（空欄）
